

並列同期の実行によるDBロック競合の削減

説明

Perfore Helix Core 2019.1では、"client.sendq.dir" 構成可能変数が追加されました。

各クライアントの "db.sendq" テーブルが作成されるディレクトリを"client.sendq.dir" で指定することにより、並列同期を実行中に使用されるデータベーステーブルでのロックの競合を減らすことができます。
並列ファイル送信作業のキュー情報はデータベーステーブル"db.sendq" に格納されます。

参照ページ

・ [「Helix Core P4コマンドリファレンス」 - client.sendq.dir](#)

手順

1. 並列同期をオンにする

Helix Core 2019.1のデフォルトでは、並列同期機能はオフになっています。
そのため、並列同期機能をオンにする必要があります。

① 同時に同期するファイルスレッドの最大数を指定します

実行コマンド

```
p4 configure set net.parallel.max=n  
※デフォルトは0(無効)。nに2以上の値を入力します
```

② 同時に同期するファイルスレッドのデフォルト数を指定します

実行コマンド

```
p4 configure set net.parallel.threads=m  
※mに2以上の値を入力します。①で設定したn値以下の数値である必要があります。
```

2. クライアントごとのdb.sendqテーブルのためのディレクトリを作成する

OSの機能を使用して、クライアントごとの"db.sendq" テーブルが作成されるディレクトリを作成します。

 "client.sendq.dir"に指定するディレクトリは、"client.readonly.dir"と同じディレクトリを指定することを検討してください。

コマンド例

```
mkdir /SP4ROOT/directory  
例：mkdir /master/root/dbsendq
```

コマンド例：ownerの変更

```
chown perforce:perforce -R SP4ROOT/directory  
例：chown perforce:perforce -R /master/root/dbsendq
```

階層イメージ

```
/master/root/  (=SP4ROOT)  
└─ dbsendq
```

3. 構成可能変数を設定する

作成したディレクトリを"client.sendq.dir"に設定します

実行コマンド

```
p4 configure set client.sendq.dir=/master/root/dbsendq
```

"client.sendq.dir"にディレクトリを指定した後に並列同期が実行されると、指定されたディレクトリに "server.dbs" ディレクトリが作成され、クライアント別の"db.sendq"テーブルが格納されます。

階層イメージ

```
/master/root/  (=SP4ROOT)
├─ dbsendq
│   └─ server.dbs
│       └─ client
│           └─ client-directory
│               db.sendq
```